

留学生就職促進プログラム 中間評価所見

大学名：東北大学

○「留学生就職促進プログラム委員会」における所見

1. 全体の進捗状況、取組と就職率向上の見通し

○一部計画を下回る取組がある。

平成30年度の就職率は上昇しているが、計画時に設定した指標を大幅に下まわっており、令和3年度に目標の就職率が達成できるか未知数である。

今回の中間評価に対して説明された目標達成のための対策は、計画の遅れを補うものと認められなかった。現状の分析から論理を組立てる必要がある。

全体としての見通しが不十分であり、留学生の就職傾向や企業のニーズを把握した上で、目標達成に向けた戦略や具体的方策の検討を行うべきである。

2. プログラムの内容の進捗状況

○一部計画を下回る取組がある。

プログラムの実績が当初計画よりも低いものが多い。進捗状況が不十分であり、当初の計画が高いこと及び実際の取組が不足していたこと等、多くの困難に直面している。

中長期インターンシップの実施人数が比較的多いことは評価できる。引き続き自治体や企業等との連携を図る必要がある。

大手志向、東京志向の学生に対して、有効な確保策（プログラムなど）を認めることができなかった。東北地域における取組が進まないことについて「意識の壁」を原因としているが、具体的な分析がなされているのか明確ではない。

3. 実施体制の構築、活動状況

○一部計画を下回る取組がある。

主幹大学自体の本事業に対する方向性が明確でない印象を受ける。

コンソーシアム参加大学、県、経済団体側の関係者から本プログラムへの関与について説明があったが、どの程度具体的に関わっているのか明確ではない。自治体、産業界との連携が不十分であれば今後の継続的発展は難しいことから、委託期間終了後にどのようなフォーメーションで継続していくのか、具体的に検討する必要がある。

4. 他大学が参考にできる事項等

○特記事項なし。